

## 笑顔と共に

沖縄県

那覇市立真和志中学校 三年 仲松 蒼

「きれいな水」といえば、何を思い浮かべるだろうか。恐らく、誰もが自然の透き通った海や川を想像することだろう。実際、私の住む沖縄県は、自然豊かで美しい水も多い。しかし近年、そんな沖縄の美しい自然にある脅威が迫ってきているというのだ。

沖縄の抱える課題の一つに、「赤土流出」がある。台風や激しい雨の後に、海や川が茶色く濁っていることが多々ある。そう、その茶色く水を濁らせているものが、「赤土」である。沖縄の沿岸には、サンゴ礁に囲まれた穏やかで浅いプールのような「イノー（礁地）」があり、貝や魚が豊富に生息していることから、「海の畑」として大事にされてきた。しかし、赤土が用水路などを伝いイノーまで流れ出てしまうと、日光が遮られ、サンゴの白化が起きてしまうのである。すると、サンゴ礁をすみかになっている魚などの海洋生態系が大きく変わってしまい、魚はおろか色鮮やかな海までもが失われてしまうのだ。

そして、赤土の影響はこれだけではない。なんと、国の天然記念物に指定されている塩川「スガー」にまで、赤土の影響が出ているというのだ。スガーは、地下から塩水の湧き出る川であり、世界的に見ても二か所しかない大変貴重な場所だ。こちらも数十年前から大雨のたびに茶色く濁っているのが確認されており、いつ水質が変わってしまったもおかしくない。

このようなことが起きてしまうのは、沖縄特有の自然環境が関係している。温暖な気候などから本土よりも赤土の層の割合が多く、パサパサと乾燥していて粘り気がない。そのため、収穫後の畑などの土壌がむき出しになっている場所に、スコールのような激しい雨が降るとあつという間に海まで流されてしまうのだ。しかし、それだけが原因というわけではない。一九七二年の本土復帰以降、沖縄では土地開発が進み、かつての森林や山地の姿は今や見る影もなくなってしまった。それが土壌を

堰き止める役目を担っていた木々や植物の激減に繋がりと、多量の赤土流出を招いたので。

今までに赤土等流出防止条例の施行などの対策が行われ、工事や開発での赤土流出は減少したが農業での規制は行われず、赤土流出問題の八十四パーセントを農地が占める結果となってしまった。そんな中、この問題を多くの人に知ってもらおうと、二〇一八年から「SUNFLOWER PROJECT」が始まった。休耕地などにひまわりを植えて、赤土のさらされている状態を防ぐと共に、その後栽培される作物にとっても肥料となる、「緑肥」とするのだ。この活動を広めるために農業コーディネーターの方々が農家へ出向いて植え付けなどの活動をされている。行われたイベントでは、糸満市の真栄平に五千平方メートルわたってひまわりを植えた。青く広がる空と海を背景にした広大なひまわり畑は、思わず笑みがこぼれてしまうほど鮮やかだ。農家の方々だけではなく地域のみんなも参加すれば、育てることが毎日の楽しみになったり、島が笑顔で溢れ彩り豊かになるだけでなく、うまくいけば観光資源としての活用も可能なのではないかと思う。

私たちにできることは、油などの生活排水を新聞紙で吸い取ってから捨てたり、海や川にゴミを捨てないようにすることだったり、これ以上大きな問題に発展させないため、身近なことから努めること。そして、この問題を知った今、寄付だけではなく自分から活動に参加して広めていくことだ。

赤土は、サトウキビやパイナップルなどを育み、赤瓦やシーサーの原料にもなっている。赤土は沖縄文化の土台でもあり、大地の恵みでもある。海や森と同じ沖縄を支える宝だ。私はそんな宝を、人々の明るい笑顔と共に守っていききたいのだ。